

2023 年度
海外帰国生 入学試験
国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 放送の指示にしたがって、問題冊子に受験番号・氏名を記入します。
次に、解答用紙の指定された場所にQRコードシールをはり、受験番号・氏名を記入します。
3. 試験時間は45分です。
4. 問題は、1ページから14ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出てください。
5. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された字数の8割以上は書いてください。ぬき出し問題では、指定された字数で答えてください。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

受 験 番 号	氏 名
K	

1 次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1 あの人のタイドを見習いたい。

2 彼女は手先がキヨウだ。

3 地球温暖化はシンコクな問題だ。

4 祖母からタヨリが届いた。

5 「カホウは寝て待て」というので、もう少し待とう。

6 枝葉末節にこだわる。

7 主人公の気高さにあこがれる。

8 こういう時は「寄らば大樹のかげ」だ。

2 ↓ (矢印) の前後が対義の熟語になるように、() 内に入る漢字を書きなさい。同じ番号の () には、同じ漢字が入るものとします。

- 1 (①)新 ↓ 保守
- 2 (②)式 ↓ 内容
- 3 (③)工 ↓ 自然
- 4 (④)性 ↓ 感情
- 5 悪(⑤) ↓ 美(⑤)
- 6 楽(⑥) ↓ 悲(⑥)

3 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

昔話は、わたしたち庶民の暮らしのなかから生まれ、何百年にもわたって、代々、口伝えされてきたおとぎ話です。親から子へ、そして孫へ、お話をつないできた根底にあるのは、子どもをいとおしむ気持ち、子どもへの愛情です。

農村では毎晩のように、祖父母、あるいは父や母、近所の親しいおとなが、囲炉裏端とかこたつにあたりながらくくく身近で、自分の声で、同じお話を繰り返し繰り返し、子どもに語りかけてくれたのです。子どもは聴きながら、お話の場面を頭の中に描いて、その世界を楽しみました。

お話ですから、そこにはリズムがありました。強弱もありました。それは、語る人によって、それぞれ異なっていたでしょう。子どもにとっては、おじいちゃんのリズム、おばあちゃんのリズム、そして強弱。それ自体が楽しかったでしょう。そして、そのこと自体が、おじいちゃん、おばあちゃんの思い出になっているでしょう。

子どもは、毎晩のように聴いたお話の内容と、聴かせてくれた声と、その声の主であるおとなに守られて成長していったのです。

わたしは昔話の現地調査で、全国の村や町へ行き、たくさんのお年寄りから昔話を聴かせてもらってきました。みんな、自分が子どものころ、おとなから聴かせてもらった話を、思い出して語ってくれました。そして、自分に語ってくれた祖父母や、父母、そして近所のおとなのことを、懐かしんで語ってくれました。わたしは、そういう姿を見ながら、いつも「昔話が、長い時間を超えて人間と人間を結びつけているんだな」と思って、感動しました。昼は働く時間で、夜はお話の時間です。わたしはあちこちで、語り手たちから、「昼むかしをする^注とねずみに小便ひっかけられると言われたもんだよ」ということを聴きました。そして、語りの時間はいつも火のまわりであったということにも、強く感動しました。火は不思議な力をもっている。

語りの中心に火がある、ということは、ヨーロッパでも同じでした。オーストリアの東チロルで、夜に語りを聴いたときにも、真ん中に火がありました。薪をつつこんだ小さなストーブを背にお年寄りが椅子に座って語り、まわりを子どもたちが囲んで、お話を聴いていました。

今、なぜ昔話が大切なのか。これには三つのわけがあります。

まず、ひとつ目は、昔話は長いこと人々の間で語り継がれてきたので、いつのまにか、そこに、「人が暮らしていく上での知恵」や、「子どもの成長につ

いての観察」が込められているということです。

そして昔話は、②子どもや若者や娘のことを語る人が多いのです。若者がいろいろな失敗をしたり、怖い目にあいながら、あるいはいろいろなじめにあいながら、なんとかそれを克服していく姿。それは、昔話の中心的な話題です。

子どもの成長する姿は、どの親にとっても初めて見ることなので、いちいち戸惑うことばかりです。「うちの子は寝てばかりいるけど、どうしよう」「うちの子はちっとも働かないけど、どうしよう」「うちの子は周りの子より劣っているようだけど、大丈夫かしら」。

ところが昔話は、語り継がれてゆく中でいろんな子どもの成長を見ているので、ちっとも驚きません。「寝てばかりいる子も、いつか必ず起きるよ」と語ってくれているし、「何かに劣っているように見えても、何かに優れているもんだよ」と語ってくれているのです。親は自分の子のことしか知らないけれど、昔話はたくさんの子の成長を見てきているので、でんと構えていてくれます。そして、③「人間への信頼」を語ってくれているのです。なぜなら、世の中の人はみんな、なんのかの心配しながら、広い目で見れば、そして長い目で見れば、なんとかかやってきているからです。

昔話というと、教訓話といわれることがあります。実際に読んでみると、間抜けな主人公ばかり出てくるのです。なまけものとか、寝てばかりいた男とか、それから、役立たずの子どもとか。そういう子が力を発揮していく。だから、昔話は愛されるのでしよう。

あるいは、実は、人の目に見えないところでコツコツと働いて、畑をちゃんと守ってくれたとか、いろんなことがあるわけです。「人間って、目立たなくて役立たずみたいだけど、実は、ちゃんとやっているんだよ、それが、あとで実ることもあるんだよ」と、昔話は人間のいろんな側面を語ってくれています。

昔話の根底には、そういう、人間への信頼がでんと構えていると思うのです。

今はいろいろな情報が飛び交い、子どもについてもなんとなく不安な気持ちにさせられます。そういう今だからこそ、長い年月、多くの人によって語られてきた昔話に耳を傾けることが大切だと思ふのです。

ふたつ目に大切なことは、お話を耳で聴いたとき、場面が見える文章であることです。

昔話は長い年月、たくさんの人によって語り継がれてきたので、聴き手にとって、聴いてわかりやすい言葉で、わかりやすい文章になっています。いわば、素朴な文章であり、そこにはしっかりとした語りの法則さえ生まれているのです。それは、繰り返しのリズムを持っていること、シンプルでクリアな語り口であることなのですが、これは世界中の昔話に共通しています。

けれども、現代、本や絵本になっている昔話は、目で読む児童文学のような文章に作り直されていることが多く、耳で聴く語りの法則が消えていたり、大切なメッセージが削ぎ落とされられていることもあるのです。^④ 伝承されてきた昔話の本当の姿を知ってほしいと思います。どうか昔話を壊さないで、次の世代に渡してほしい。そのことについては、^{注4} 五の扉を読んでいただきたいと思えます。

そして、大切に思うわけが、もうひとつあります。

それは、昔話が身近なおとなの生の声で、直接、子どもの耳に入ることです。農村でおじいちゃんやおばあちゃんが子どもにお話を語るとき、ほとんどが囲炉裏のまわりとか、こたつにあたりながらでした。子どもは、同じ声を、ごく身近で、毎晩のように聴いたのです。

人の声は不思議な力をもっています。声はいつまでも耳に残ります。おじいちゃんの声が耳に残っている人は、自分がそのおじいちゃんに愛されていたことを感じるでしょう。子どもときには別に意識しないで聴いていた親の声、祖父母の声を、あとで思い出して、自分が愛されていたことに気がつくこともあるでしょう。

今はいろいろな方法で、機械を通した声やお話が子どもの耳に入ってきます。ラジオ、テレビ、CD、スマホ、インターネット。それは便利なことです。けれども、子どもが、自分が愛されていることを感じられるのは、生の声だけです。

だからわたしは、どうかお話を、あなたの生の声で子どもに読んで聴かせてやってもらいたいと思うし、覚えて語ってやってもらいたいと思うのです。お話は中身がありますから、それが、生の声で聴こえたら、必ず子ども心に残ります。

聴いたそのときから心に残るとは限りません。忘れてしまうことだって、もちろんあります。けれども、声に担われて聴いたお話は、何年もたってから、ふと、子どもの心によみがえることだってあるのです。もう子どもとはいえない年齢になってから、思い出すことさえあるのです。それが、お話の不思議さだし、声というものの不思議さなのです。

お話を覚えて語るなんてできない、と思っていらっしやる方が多いと思うのですが、それには、わたしの秘策があるので、^{注4} 六の扉の「昔話の覚え方」のところで読んでみてください。そして、試みてください。案外むずかしくはないのです。

もちろん日常の生活のなかでのやり取りも大事です。そういうやり取りの中で、子どもたちは、いつのまにか、自分が愛されていること、守られていることを感じているでしょう。

その上に、あなたの声でお話を聴くと、お話の内容とあなたの声が一緒いっしょになって、子どもの生きる力を励ほげましてくれるでしょう。

前に書いたとおり、わたしは農村に行つて、村のお年寄りから昔話を聴かせてもらうことを、長年してきました。そういうとき、語ってくれるお年寄りは、例外なく、子どものころ、自分に聴かせてくれたおじいちゃんやおばあちゃんのことを思い出して、懐かしんでおられました。そういう場面に出会うたびに、わたしは、^⑤お話の持つ力、そして声の力に、震ふるえるほど強い感銘かんめいを受けたのでした。

そして、今、思つのです。

いろいろな技術が進歩して、情報の量も大量です。それは生活を豊かにしているでしょう。けれども、^⑥子どもの成長を内から支えてくれるのは、まわりの人の生の声なのです。

お友達の声、先生の声、身近なおとなの声、身内の人の声……。

おとなたちは、日常生活の中で、子どもたちにたくさん声をかけてやってもらいたいと思います。

子どもが学校から帰つてきて、今日いちにちにあったことを報告したら、忙しいでしょうけれども、ちゃんと耳かたむを傾けて聴いてやってください。そして、はっきり「そう」とか「へええ」とか、相槌あいきちを打つて、返事をしてやってください。

「あなたの話をちゃんと聴いているよ」ということを示してほしいと思つのです。

すると、子どもは手ごたえを感じて、張り切つて報告するでしょう。そして、子どもは、ますます自分の存在が認められたことを感じるのです。

これは、子どもの成長にとって、決定的に重要なことだと思ひます。言葉は、人間と人間を結びつけるものだからです。「ほくは、わたしは、お父さんに、お母さんに認められているんだ」という自覚。これは、手探りてさぐで成長している最中の子どもにとっては、大きな、大きな、そして堅固けんこな土台です。

これから長い人生を歩いていく子どもたちに、あなたの声をプレゼントしてください。

子どもたちは、これからの人生で、いろいろなことを経験していくでしょう。そういう人生を、元気に生きていくための励ましになる声を、子どもたちにたくさん聴かせてやってください。

注1 囲炉裏端 〓 囲炉裏(室内のゆかの一部を四角に切りぬいて火をたくようにした場所)のまわり

注2 昼むかしをする 〓 昼に昔話をする

注3 オーストリアの東チロール 〓 オーストリア共和国の一地方

注4 五の扉六の扉 〓 この後に出てくる章の名前

(小澤俊夫『昔話の扉をひらこう』暮しの手帖社による)

1 線①「長い時間を超えて人間と人間を結びつけている」とありますが、どういふことですか。その説明として、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 一つの時代であっても必要とされる道徳心や善悪を教え続けていること

イ 子どもたちの持つ、さまざまな個性を大切にすること

ウ 語られた経験、思い出を持つことで、何世代にもわたるつながりができていくこと

エ いろいろな教訓や失敗談を長く語り継ぐことで、思いやりの心を伝え続けていること

オ 人から人に語り継がれるうちに、地域をこえて多くの人々を結びつけていくこと

2 線②「子どもや若者や娘のことを語ることが多い」とありますが、なぜですか。その理由として、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 子どもや若者などは経験が少なく失敗が多いから

イ 子どもや若者などの失敗談がないと、聴き手が納得しないから

ウ 子どもや若者などの失敗談は多くの人々の役に立つから

エ おとなが自身の失敗を後悔、反省して作ったものであるから

オ 失敗を乗り越えて成長する姿を示すことを主題としているから

3 線③「『人間への信頼』とありますが、これはどういふことですか。その説明として、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア まじめに努力したものが最後にむくわれることを語っていること

イ 様々な個性や欠点を受け入れ、その意味を見いだしていること

ウ 失敗から学びを得られるよう、常に前向きに生きていること

エ 悪いものは最後には必ずほろびるといふ教えが根底にあること

オ 人々のやさしさの存在を基礎として物語が成立していること

- 4 ——線④「伝承されてきた昔話の本当の姿」とありますが、これはどのようなものですか。()にあてはまるかたちにして、四十字以内で説明しなさい。
- () もの

(下書き用)

もの								

32

- 5 ——線⑤「お話の持つ力そして声の力」とありますが、その例としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 子どものころの記憶を呼び覚ますことができる。
- イ 愛情を伝えることができる。
- ウ 年月を経ても語り手の存在を感じられる。
- エ 聴いた時にはわからなかった意味や真意を、後から伝えてくれる。
- オ 傷ついた心をなくさめてくれる。

6 ———線⑥「子どもの成長を内から支えてくれるのは、まわりの人の生の声なのです」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「子どもの成長を内から支えてくれるのは、まわりの人の生の声なのです」とありますが、これはどういうことですか。その説明として、さわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 声の力により、自分の存在を認めてもらったという子どもの自覚が生じていくということ

イ 多くの人からの様ざまな声かけにより、子どもは学びを得て、成長していくということ

ウ 周囲の人々からかけられた励ましの言葉は、子どもの心の育成に欠かせないということ

エ 子ども心に最も残るのは、直接声で伝えられる情報であり、大切であるということ

オ 多くの情報を耳から得ることは、子どもの成長をいろいろな面から助けるということ

(2) 「内から支えてくれる」とありますが、「内から支えてくれる」ものを示すことばを文章中から十六字で探し、最後の三字を書きぬきなさい。

7 次の三人の会話を読み、「昔話」について、筆者の考え方に沿ったものを二つ選び、記号で書きなさい。

ア 共子：昔話といえば、小さなころ、いなかでおばあちゃんに読んでもらった話が忘れられないな。

イ 立子：私は、だがし屋のおばちゃんが話していた、近くの神社のお話が印象的だったわ。すごく怖くて。

ウ 愛子：ああ、妖怪が出るって話ね。怪談なんて、うそのお話でしょう。作り話にはあまり意味はないと思うな。

エ 立子：確かにそうね。実際に経験したことや見たり聞いたりにこそ、何か教訓があるのよね。

オ 共子：教訓とも限らないかも。ただ、「こんな人がいました」というだけの話もあるよ。

カ 立子：それこそ、意味がありませんわ。悪い人より良い人のほうが得をしたという話こそが本当の昔話だと思うわ。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「部屋の掃除をつい先延ばしにしてしまっ」「毎日コツコツと試験勉強ができない」「ダイエットへの挑戦が①で続かない」などなど、「やる気」は悩ましい問題である。このように「やらなきゃ」と思ってもやる気が出ずに、結局やれなかったという苦い経験は、誰にでもあるのではなからうか。

やる気が出ないのは自分だけでは足りない。他者のやる気も気かりだろう。子どもがなかなか机に向かって勉強しないので、親はイライラして、わが子のやる気の問題があると考える。暇さえあればサボったり、努力せずに手を抜いたりしがちな部下の仕事ぶりに手を焼いている上司は、彼らのやる気を何とかして高めたいとあれこれと策を講じるだろう。

どうやら、やる気をめぐるわれわれの悩みは、「どうしたら自分がやる気になるか」と「どうしたら②をやる気にさせられるか」という二つの問いに集約されるようだ。

しかも、やる気には対象による違いもある。たとえば、仕事へのやる気、家事に対するやる気、勉強へのやる気というように、課題の種類や分野によってやる気は異なる。仕事へのやる気はまあまあだが、家事に対してはまったくやる気が出ないという人がいる。また、同じ家事でも、料理には自ずとやる気が生じるのに対して、洗濯と掃除にはなぜかやる気が出ないという人もいる。このように同一人物であっても、やる気のある分野とない分野があるのが普通で、生まれてこの方、何事に対してもやる気がある(あるいは、まったくない)という人はごく稀だろう。

③ 一般に、やる気は、特定の行動を引き起こす原動力として理解されている。とりわけ、「やる気があれば頑張れる」というように、われわれはやる気を努力と結びつけて理解している。やる気は努力を促して行動を引き起こすと考えているわけだ。

ちなみに、自分の経験をもとに信じているこのような理解の仕方を、心理学では素朴理論と呼ぶ。われわれは、この「やる気＝原動力」という素朴理論に基づいて自分や他者の行為を解釈しているのである。

何よりもわれわれの体験が、この素朴理論を裏つけている。やる気や努力は実感しやすい。心身にエネルギーが満ちあふれ、目の前の課題に意識を集中するといった心理状態は誰も体験したことがあるだろう。このように、やる気の有無は「やる気体験」、さらには「努力体験」としてイメージしやすいため、それが「やる気＝原動力」と信じる根拠となっているわけだ。

素朴理論はこのように体験的な裏付けがあるために強固なのだが、素朴すぎるといふ欠点がある。たとえば、やる気がありさえすれば常に行為が生じるだろうか。よく耳にする「やる気があるんだけど、なかなかできない」というセリフが示す通り、やる気が必ず行動に結びつくとは限らない。

また、やる気という言葉に「気」という漢字が含まれているという点も興味深い。そもそも「気」とは、空気や大気のような「変化、流動する自然現象」を指し、そこから転じて「生命、精神、心の動き」「心のはたらき、意識」をも意味するという。「気が変わる」、「移り気」といった言葉からわかるように、そこには一時的で不安定というニュアンスがある。「洋俄然、やる気が出てきた」「一気にやる気が失せた」といった表現からもわかるように、やる気には波のような一時的で不安定な性質があるのだ。

やる気に似た言葉として「意欲」がある。やる気と同様、自分の心理状態（「今日は意欲的だった」）や他者の様子（「あいつにはまったく意欲が感じられない」）に対して用いられる日常語である。

意欲という言葉はそもそも「意志」の意と「欲求」の欲の複合語だということ。意志とは最後までやり遂げようとする心理を指し、欲求とは「○○したい」という個人の内部から湧き出る願望を意味することから、意欲とは「やりたい」という強い願望を原動力として、最後までやり抜こうとする心理現象を意味する。

ポイントは「意」と「欲」のいずれかが欠けると意欲とは呼べないという点だろう。「○○したい」と思っているだけで意志が弱かったり、「成し遂げよう」という意志はあっても「やりたい」という強い気持ちが無ければ、意欲的とはいえないのである。

たとえば、食通と呼ばれる人たちは、食べることに對して、意欲的に違いない（「食べることに對してやる気がある」とはいわないはずだ）。「おいしいものを食べたい」という欲求は誰にでもある。しかし、それを成し遂げようとする意志はあるだろうか。空腹時に「ラーメンを食べたい」と思っても、近場にラーメン屋がなければ、「パスタでもいいか」というように、他のメニューで妥協する人は多いに違いない。ラーメンを食べようとする「やる気」がすぐに失せてしまうわけだ。

それに対して、^④食に意欲的な人は、あくまでもラーメンに固執し、遠くに移動してまでもラーメンを食べることにこだわりつつけるだろう。さらには同じラーメンであっても、よりおいしいものを追い求め、たとえば、近隣にある複数のラーメン屋の評判を調べ上げて比較検討するに違いない。その結果、彼ら自身が食べるに値すると考えるラーメンに確実にたどり着く。彼らは単に「おいしいものを食べたい」という欲求が強いだけでなく、おいしい

ものを食べ、遂げるという意志が強い人たちなのである。

しかも、彼らの意欲はその場限りではなく、いつでもどこでも発揮される。一日三度の日常的な食事場面のみならず、出張や旅行の出先でも、彼らの食に対する意欲的な姿を観察できるはずだ。

以上のように考えると、やる気と意欲の微妙な違いがわかってくる。やる気が短期的で不安定な状態を指すのに対し、意欲には意志のはたらきが加わるため、「粘り強い」(持続性)、「確実に行為が起る」(確実性)、「いつでも発揮される」(安定性)といった意味が含まれるのである。

「やる気とは何か」「意欲とは何か」という原理的な問いよりも、むしろ世の関心を集めているのは「やる気」であれ、「意欲」であれ、「それらの高め方」というトピックであろう。

世間のニーズに応えるかのように次々と刊行される書物には、「目標を設定せよ」「ご褒美を効果的に使え」「ポジティブに考えろ」といった言葉が躍る。**⑤A**、それらによって問題がすっきり解決されたという声を聞くことはほとんどない。いくつかの**注3** 処方箋」によって解決するほど、単純な心理現象ではないからである。

⑥「やる気(意欲)の高め方」に関しても、われわれの素朴理論がある。その典型例が「ほめればやる気になる」といった「ほめ言葉」の効用だろう。確かに他者からほめられればうれししいし、そのことによってもっと頑張ろうと思っという経験は多くの人にあるだろう。しかし、この考え方もあまりにも素朴すぎる。「ほめ言葉」が人のやる気に及ぼすはたらきは意外に複雑で微妙なものであることを、心理学は明らかにしているのである。

⑤B、「なぜこの人は私をほめるのだろう」と、その背後に何か隠された意図があるのではと勘ぐってしまうことがある。上司が、教師が、親がほめる場合、「もしかすると、私に〇〇をやらせたのでは?」といった、ほめる側の思惑を感じてしまうのだ。もちろん、いつもそのように懐疑的になるわけではないが、むしろ「相手の言いなりになるものか」といった反発を招く可能性さえある。単に、ほめればよいというわけではないのだ。

(鹿毛 雅治「モチベーションの心理学」「やる気」と「意欲」のメカニズム」中央公論新社による)

注1 俄然 Ⅱ 急に状況が変わるさま

注2 妥協 Ⅱ 対立する意見をまとめること。ゆずり合い歩み寄ること

注3 処方箋 Ⅱ 治療のために必要な薬を指示した紙

1 ①に入る四字熟語を次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 一石二鳥 イ 二束三文 ウ 三日坊主 エ 四面楚歌 オ 五里霧中
- みっかぼうず しめんそか ごりむちゆう

2 ②に入れることばを、10ページの文章中より漢字二字で書きぬぎなさい。

3 線③「一般に、やる気は、特定の行動を引き起こす原動力として理解されている。」とありますが、これに対して筆者はどのような意見を持っていますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア やる気がいつも特定の行動を引き起こすことは、素朴理論により正しい。
イ やる気の有無と努力や行為には全く関係がない。
ウ やる気はつねに特定の行動に対する意欲を生みだし、努力へつながる。
エ 努力や行為がやる気を引き起こすこともある。
オ やる気が努力や行動に結びつかない場合もある。

4 線④「食に意欲的な人は、あくまでもラーメンに固執し、遠くに移動してまでもラーメンを食べることにこだわりつつけるだろう」とありますが、なぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 食に意欲的な人は、いつまでもやる気を求め続けて行動してしまつから
イ 食に意欲的な人は、移動することにも固執し、欲求を満たそうとするため
ウ 食に意欲的な人は、やる気と意欲の微妙な違いを見分けることができるから
エ 食に意欲的な人は、目標を設定し、ポジティブに考えることにたけているから
オ 食に意欲的な人は、食べたいという気持ちに加え、成し遂げようとする思いが強いため

5 ⑤A・⑤Bに入れることばとしてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で書きなさい。

- ア しかも イ たとえば ウ そのため エ しかし オ あるいは

6 ー線⑥「やる気(意欲)の高め方」に関しても、われわれの素朴理論がある。」とありますが、それはどのような「素朴理論」ですか。次の()にあてはまるようなかたちにして説明しなさい。ただし、Aを二十五字以内、Bを十五字以内で書きなさい。

- () A 二十五字以内 () 経験から () B 十五字以内 () と考えること

(下書き用)

A			
経験から			
	20		

B	
と考えること	
	12

7 文章中から次の一文がぬき出されています。この一文が入る直前の六字を書きぬきなさい。

逆に、しなければならぬ課題に集中しようとしても気が散ってしまったり、先延ばししてしまったり、あれこれと自分に言い訳をして、もっと楽しい別の活動に逃避してしまったりといった体験もある。

(問題はこれで終わりです)